

全八冊 馬琴今作

新編金瓶梅第九集

卷之九

上 換 圖 貞 画

和泉屋市之丞唐板

珍 泉
印 元



言

若夫飛鳥風月の如く其人是を愛する。是を愛する小各差あり。詩歌の爲小
 愛者有風流士と云ふ。飲食官能の爲小愛者有珠人と云ふ。賣買利を計る
 爲小愛者有買堅三行中。小苑中風雨の景を惜れ鳥小植山の良別を惜
 ち多風小萬葉の唱にを厭ふ。月小浮雲の偕多のを觀する者有。坐
 靜悟道の達者有。乾鳥の爲小知己といふ。然小果敢るは菓子物語
 を好も亦是小似さる。趣向の巧小。勸微の正を欲する者有。眞の者有
 者。又巧拙と勸微と小管と只浮るを欲むを句。棟下の省官と云ふ。又只
 画を見七丈を見。只人の話さる。其崖壁を和ま。故ま。是白後の小
 更。書肆の得意ありあり。押造新編金粧極。彼三の省官
 あり。右のた小。癖者。の強。の團扇。を扱。あり。

天保十三壬寅年春正月吉日新板 七頁大人馬琴下自序



春の魚
第一

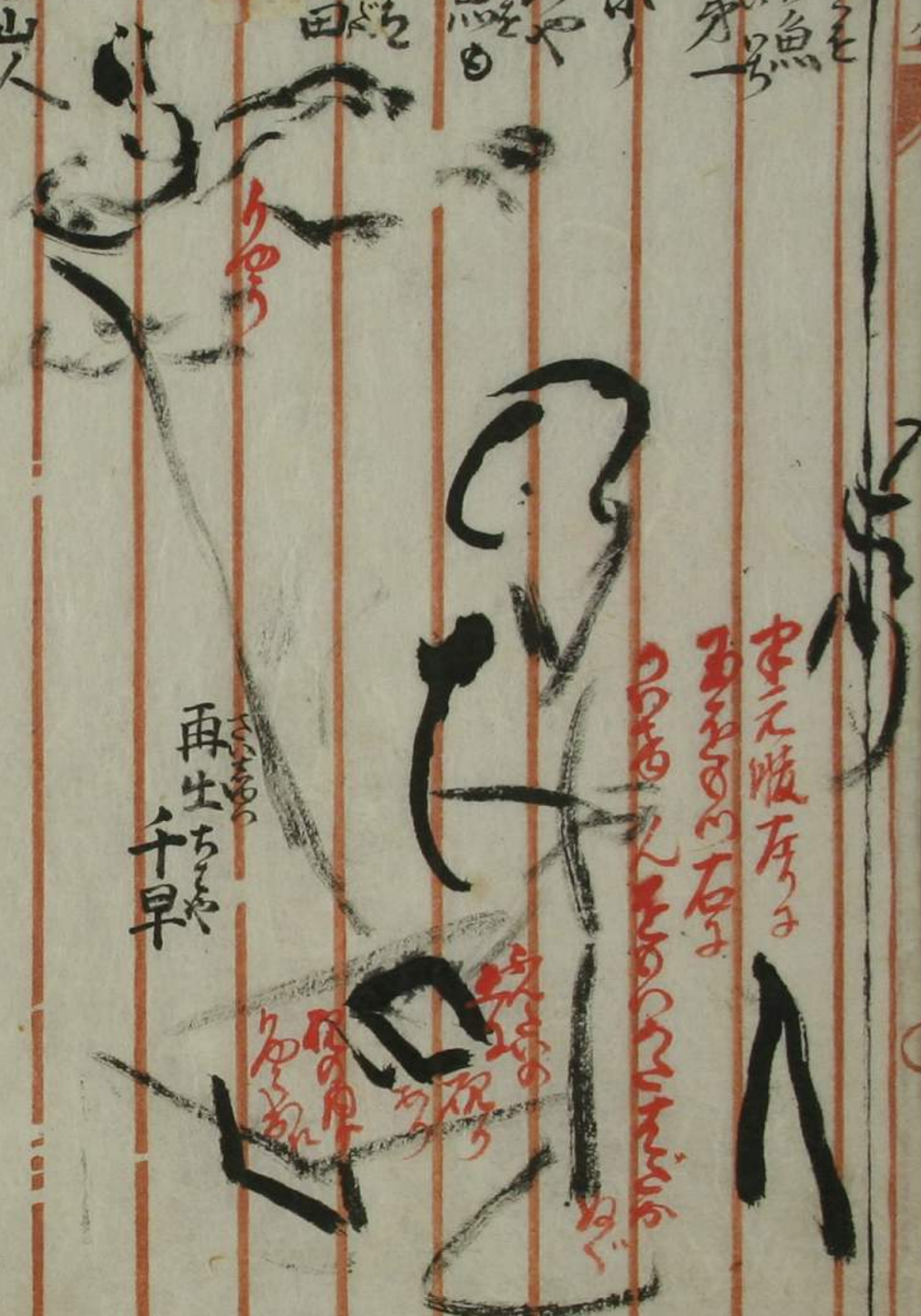
飯小

白魚

目田

河

愚山人



中元庵存子
五右衛門の石子

春の魚
第二

再出
千早

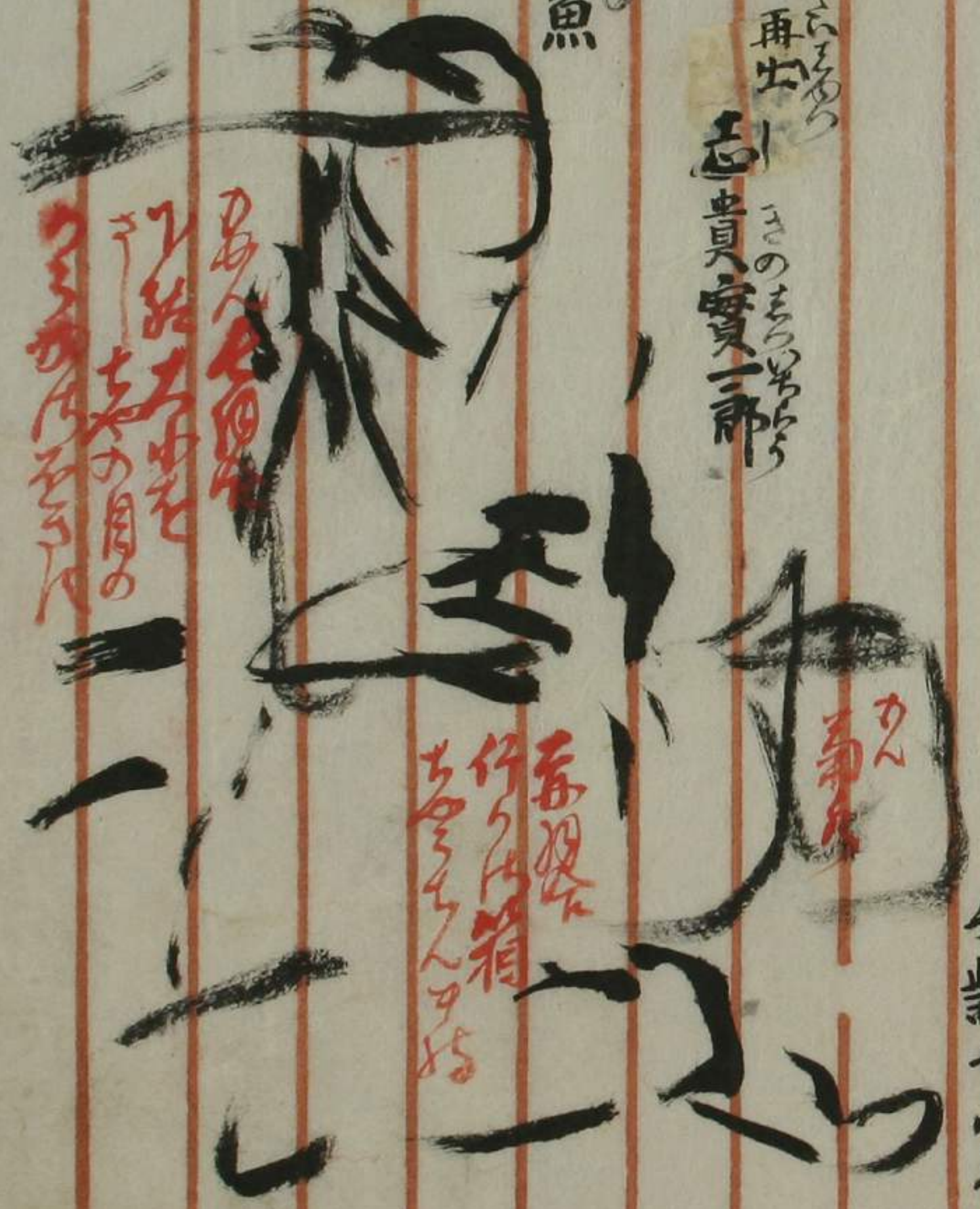
春の魚
第二

柳系

釘押原

送り松魚

頼鳥齋



奴隸萬平

再出
志貴實三郎

春の魚
第二

春の魚
第二

夏の魚

鱸三

初堅魚

魚

走

競ひ

狂齋



魚

川北

川北

魚

魚

山路
檀作

夏の魚

鱸三

竹筴魚

信天翁

魚



魚

魚

雲津

まゆみ

秋の魚

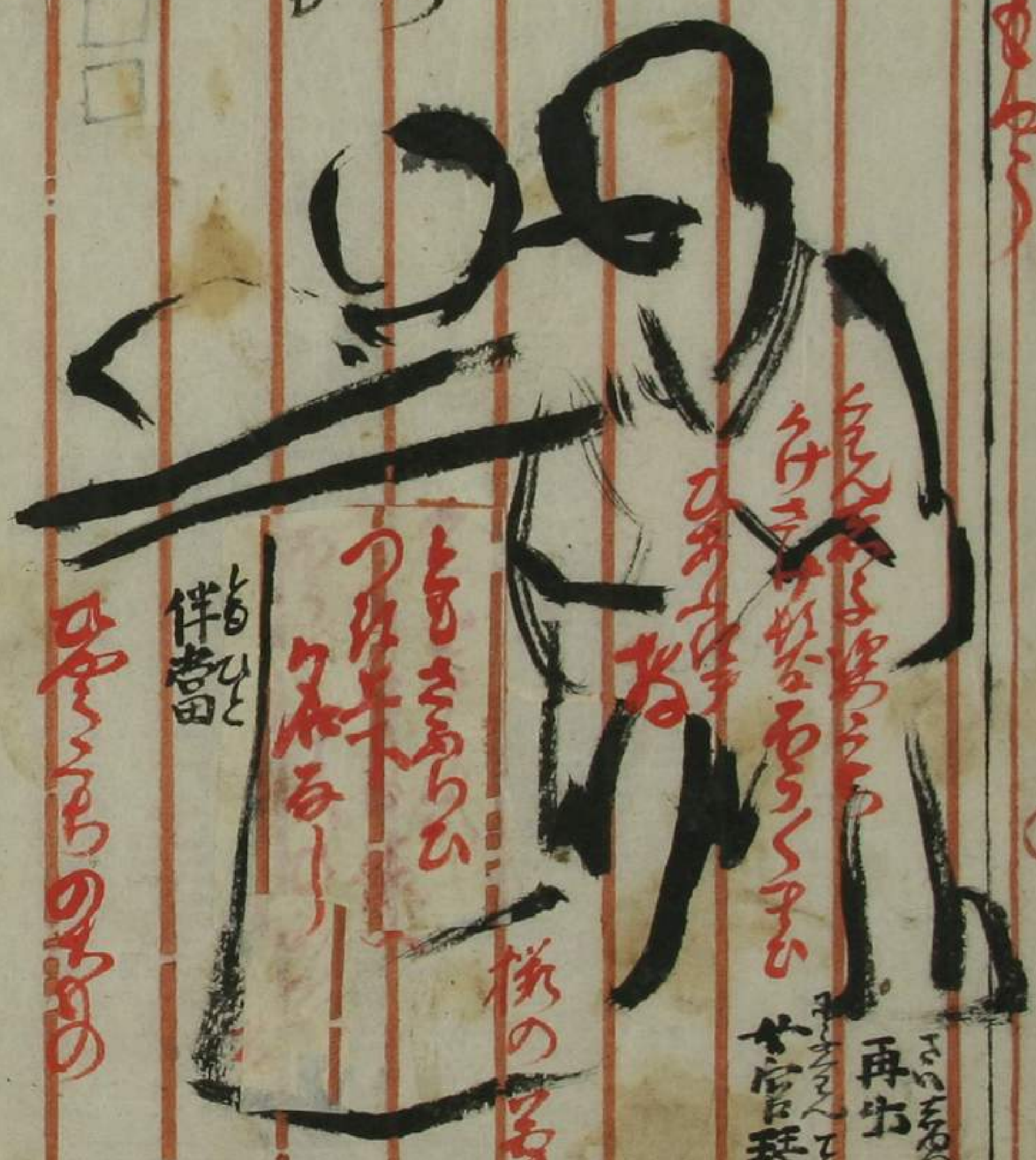
第五

肥稟の

秋と海

オセサカ

半閑人



再出

官琴柱

紅い文字の書き
ひまわり

ともさありひ

つゆみ

伴富

あまのり

秋の書

あまのり

冬の魚

第六

膽を

死あぬ

つりど

河豚汁

菘菜



三出

結

あま

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

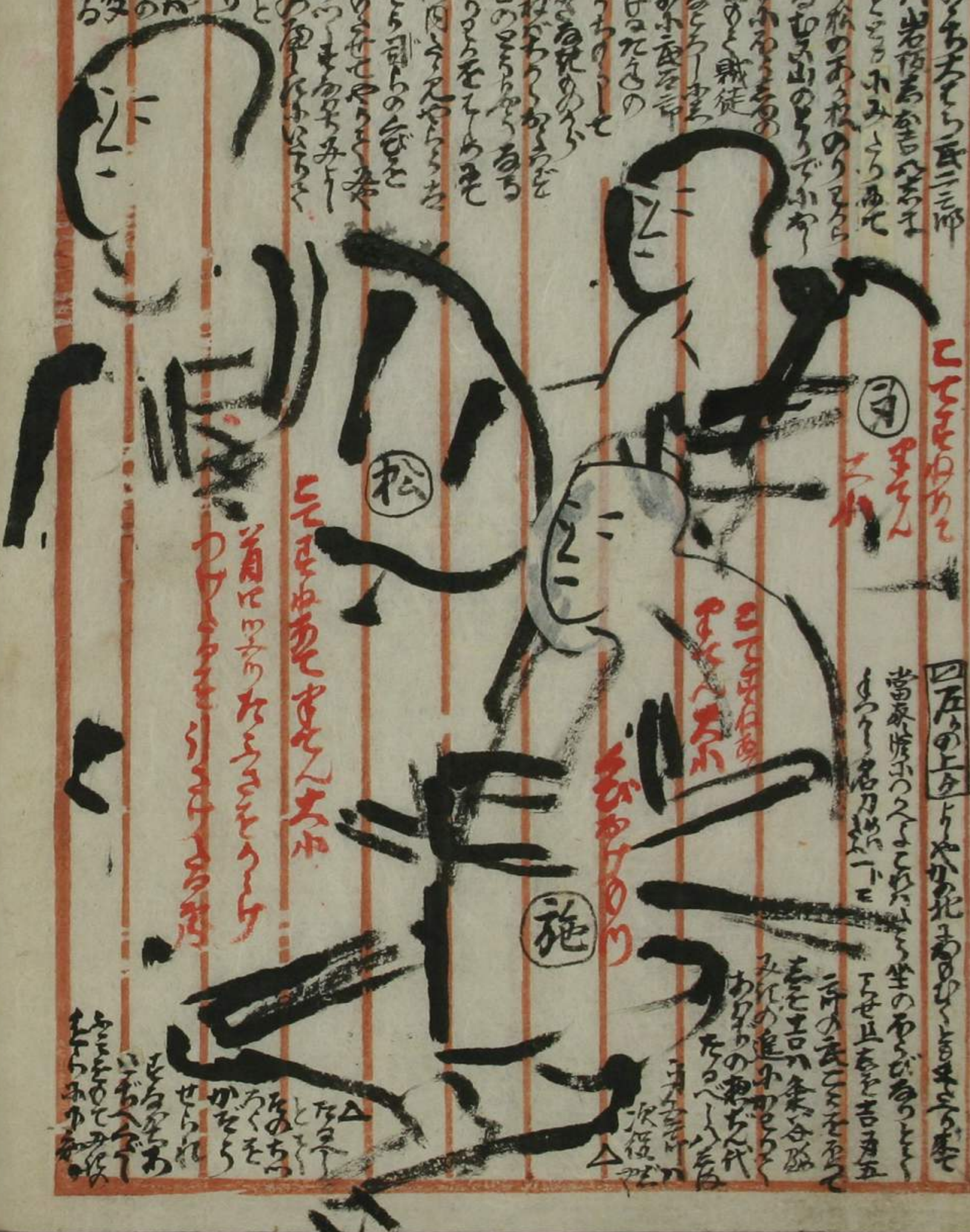
あまのり

三出

金蓮

あまのり

このものをちてら三三節
民松の岩阿る言ひは
月を仰とら小みよりあて
たてはひし松のあてのりは
このりるむ山のもうぞ小
まへくすわゆるあ
まをそのと賊徒
はをみるちり
されともあ小を
のあらひはたこの
われをちのりて
るこのあなるのり
まをそのと賊徒
まをそのと賊徒
まをそのと賊徒
まをそのと賊徒



ここのりて
まをそのと
まをそのと

(松)

ここのりて
まをそのと

(施)

まをそのと
まをそのと

まをそのと
まをそのと

このものをちてら三三節
民松の岩阿る言ひは
月を仰とら小みよりあて
たてはひし松のあてのりは
このりるむ山のもうぞ小
まへくすわゆるあ
まをそのと賊徒
はをみるちり
されともあ小を
のあらひはたこの
われをちのりて
るこのあなるのり
まをそのと賊徒
まをそのと賊徒
まをそのと賊徒
まをそのと賊徒

みきの屋敷

まをそのと
まをそのと

いひ



まをそのと
まをそのと

まをそのと
まをそのと

まをそのと
まをそのと

まをそのと
まをそのと

三行の吉方... (Small vertical text at the top of the page)

海を渡る
Three large vertical calligraphic characters: 海, 渡, る.

画字行口状

一能者旧々々老眼益衰... (Main body of vertical text in red ink)

六ノ八日

丁未十二月辛丑年
夏六月八日稿了

著作佐壹口授稿

筆
福
硯
壽
大吉
利
市

特 別

~13

4308

3